

## 1. 短期展望 (p.1)

- ①[アメリカ株、先行きは明るい]
- ②[バーナンキ氏FRB議長選出の理由]
- ③[利上げ打ち止めへの期待]
- ④[来年春、円安反転の可能性]
- ⑤[WTOドーハ・ラウンドは失敗する、日米は一体化する]

## 2. 展望①：郵政公社の行方 (p.6)

11月11日、民営化で発足する持ち株会社「日本郵政株式会社」の初代社長に西川善文・三井住友銀行特別顧問(前頭取)の起用が決定した。この人、楽天証券の取締役もつとめているが、何といても外資の中で一番縁が深いのが、ゴールドマン・サックス社である。竹中郵政民営化大臣もゴールドマン・サックスに近く、竹中氏の推薦で、西川氏の就任が決まったと推測できる。今後、郵政公社民営化で、三井住友というよりは、ゴールドマン・サックスが一番おいしい所を取ってゆくのであろう。

## 3. 展望②：対露政策を転換した 米ブッシュ政権 (p.8)

米ブッシュ政権の対ロシア戦略に一大転換の兆しが見え始めている。この転換を主導しているのは、右腕のルイス・リビー米副大統領補佐官がCIA工作員の氏名漏洩疑惑に巻き込まれ、身動きの取れないチェイニー副大統領に代わって、米外交の主導権を握りつつあるライス国務長官であろう。何れにせよ、今後、特に中東情勢を巡って米露連携の具体的な動きが浮上してくるのは確実であろう。